

令和5年度「市長と語り合う会」について（道川地区）

1 出席者状況

開催日（曜日）	会場	時間	出席人数		
			男	女	計
令和5年 4月24日（月）	道川公民館	19:00～20:00	9	1	10

- 市側出席者
市長、副市長、政策企画局長、総務部長、秘書課長

2 会の概要

- 開 会（秘書課長）
 - ・ 会の趣旨説明
 - ・ 出席者紹介
- あいさつと市政運営の説明（山本市長）

1. 令和5年度 施政方針の考え方

・ウィズコロナからアフターコロナへ

約3年余りコロナでいろいろな制限があったが、3月13日にマスクの取り扱いが緩和され、また5月8日からは、感染法上の位置づけが、現在の2類相当から5類に引き下げとなり、さらに制限が無くなってくると思われる。自粛や縮小されたてきたイベントについては、少しずつ元に戻りつつあると感じている。なるべく市内における人と人の繋がりや経済活動が活発になるよう進めていきたいと考えている。

一方で、コロナ感染の状況についても、注視しなければならないと思っている。

・持続可能な未来都市の実現

現在、世界においても、また日本においても、いろいろな危機的な状況のある中で、将来にわたって発展できるまちづくりを目指していかなければいけない。

世界的には、温暖化により異常気象が頻発しており、市内においても、大雨に伴う水位の上昇により、避難を呼びかける事態が毎年起きている。

感染症も、今コロナが話題となっているが、新たな感染症の流行が今後も起こりうるという懸念がある。

市内においては、人口減少と少子高齢化が大きな課題であり、地域では、人材の流出や限界集落、医療、買い物、介護といったサービスを受けられるかどうかということが、喫緊の課題となっている。

そういった中で産業の衰退が起こりつつあり、行政においても、財政が健全に運営される必要がある。

このように課題が山積している中で、新しい技術を活用し克服していくことが求められる。

市においては、デジタル・トランスフォーメーションを推進し、デジタル技術を利用して行政手続きの効率化、市民へのサービスを充実していくことを強く意識している。その一つとして、今年度から亡くなられた際の手続きを、出来るだけ1カ所で済むようにする「おくやみサポートサービス」を実施している。

また、地球温暖化に関連し、共用車の1台を電気自動車にし、二酸化炭素の削減効果等を検証することとしている。

2. 令和5年は様々な節目の年

・JR益田駅開業100周年

4月16日に、益田駅開業100周年並びに山口線全線開通100周年の記念式典イベントが行われた。鉄道については、利用者が減り赤字路線の存続が大きな課題となっているが、地域に

とって必要なものなので、十分に検討していかなければいけないと考えている。

・萩・石見空港開港30周年

空港については、無くてはならない空の玄関口である。先日、東京線2往復運航が令和7年3月で継続されることが決まった。

その後も2往復運航を継続していくため、さらに利用拡大を勧めていきたい。

・柿本人麿没後1300年

柿本人麿も、本年が没後1300年に当たるとされている。現在、民間の団体が記念イベントが準備されており、行政としても、支援していきたいと考えている。

今年、このような節目がいろいろと重なった年であるので、益田市の機運を盛り上げていきたいと考えている。

○ 意見交換

質問項目は以下のとおり。詳細は別紙のとおり。

- ① 地域自治組織について
- ② 市道の草刈りについて
- ③ 地域おこしについて
- ④ 風力発電の建設について
- ⑤ Uターン者への支援について
- ⑥ ICTを活用した教育について
- ⑦ 地域の情報発信について

○ 閉会（秘書課長）

令和5年度「市長と語り合う会」

〔会場 道川公民館 開催日時：令和5年4月24日（月）19:00～20:00〕

要 望 事 項 等	回 答
<p>① 地域自治組織について 地域自治組織について、これまでは、地域魅力化応援隊という制度を使っていたが、今年度から地域マネージャ制度に移行した。これに伴い、雇用主が道川自治会の会長個人となり、責任や負担がかかることとなるため、法人化することを検討している。本地区が法人化に向けて進めていく際、また他の地域自治組織が地域マネージャ制度取り入れる際のガイドラインや相談窓口を、市として設けるべきと考えるがどうか。</p>	<p>① 市としては、地域マネージャへの移行を進めており、地域住民が主導で進めていくことでより実情に沿った活動が行われると考えている。法人化を進めていく事も望ましいと思うが、法人化にしても、雇用にしても、担当課でサポートしなければならないと思うし、その体制も今後充実させていきたい。</p>
<p>② 市道の草刈りについて 市道除草作業において、我々の集落が行う範囲は未舗装区間のため、道全体を刈る必要があり面積も通常より多くなる。また、物価高騰、高齢化等で管理が困難となっており、単価の引上げ等対応出来ないか。</p>	<p>② 道路の除草については、いろいろな地域から同様なご意見を伺っている。単価については内部で情報共有し、改善出来ないか検討したい。</p>
<p>③ 地域おこしについて 当地域も高い高齢化率の中で、社会減の対策を考えるべきと思っているが、市外、県外からの関係人口や定住人口への取り組みが手薄く感じる。食事をする場所や宿泊場所が少ないため匹見のコンテンツが仕掛けにくい。匹見町の社会減に対する政策、アイデアはないだろうか。</p>	<p>③ 悩ましい問題であるが、一つは、本地区だけで完結するのではなく、他の地区との連携も重要と思う。例えば先日開所した二川地区の宿泊交流センターを活用することもできるのではないか。また、情報発信を効果的に行うことも重要である。行政や地域の方、また民間事業者等、いろいろな人が知恵を掛け合いアイデアを出し合うことが必要ではないかと考える。</p>
<p>④ 風力発電の建設について 自治会や地域づくりの会としては、建設を受け入れ、地域づくりに活用したいと考えている。意見はいろいろあるが、市としての考えを伺いたい。</p>	<p>④ 大前提として、風力発電は、再生可能エネルギーであり、脱炭素の観点から、基本的には進めていくべきと考えるが、一方で、災害や環境、景観への影響、また施設の耐用年数後の対応等の懸念から反対意見もある。市としては、関係する法律をクリアすれば、反対する立場にないが、事業者は、反対の声を受け止め、理解していただくための十分な努力を行ったうえで進めていただきたい。</p>
<p>⑤ Uターン者への支援について 高校を卒業し益田に居てもらう事もとても大切であるし、高校等を卒業し一度県外へ出て経験を積み、将来益田市へ帰って、その経験や外からの情報を活かしてほしいとも思っているが、そういったUターン者に対し、何らかの恩恵や、帰りやすい状況を作してほしい。</p>	<p>⑤ 現在も、Uターン者への奨励金制度や、受け入れ企業に対しての補助金等、官民が連携し行っており、そういった企業をもっと増やしていきたい。また、子供たちが地元の活動や企業等と触れ合う機会も増やしていきたい。</p>
<p>⑥ ICTを活用した教育について ICTを活用した教育ができていないように感じる。タブレットの有効活用や、教える教員のレベルの向上等底上げが必要ではないかと</p>	<p>⑥ 今、市内の小中学校では、一人1台の端末の配布を行ったところである。ICT教育については、学校によってばらつきがあり、進んでいる学校の事例を普及させる事で、市全体</p>

<p>思う。</p> <p>⑦ 地域の情報発信について 道川地区地域自治組織で、地域の情報発信ツールとして公式ラインアカウントをはじめたので、登録をお願いします。</p>	<p>のICTを活用した教育を進めていきたいし、教員にも理解していただき進めていきたい。</p> <p>⑦ 市役所内でも周知を行いたい。</p>
-------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------